



Vol 8 (令和4年5月)  
発行: 伊丹市立幼児教育センター  
住所: 伊丹市千僧 1-1  
電話: 072-780-2488  
アドレス: youji-ed@city.itami.lg.jp

## ★『夢中になって遊び、よく考える子ども』の育成を目指して～環境構成を見直す～

『夢中になって遊び、よく考える子ども』は、本市幼児教育ビジョンにおける「育てたい子ども像」です。「夢中になって遊ぶ」とはどのような姿でしょうか。「遊び」と一口で言いましても、思い描くものは人様々であり、保育者と保護者、地域と言った立場によっても様々だと思います。

乳幼児期の「遊び」については、どのような遊びが望ましいのでしょうか。子どもたちは、予測困難なこれからの社会を生き抜いていかなければいけません。必要な資質や能力を身に付けるためにも、どのような遊びや体験が必要で、そのためにはどのような環境の構成が必要なのか。

「環境構成」は幼児教育・保育の要であります。今年度は、子どもの「遊び」や「夢中になって遊ぶ」こと、また「望ましい環境構成のあり方」について、4回の連続講座(市研修会)で先生方ともに研究を深め、本市ならではの(仮称)「伊丹市保育環境構成のてびき」を作成します。併せて、各園所においても園内研究会や研修会等で「環境構成の見直し」等される際は、幼児教育センターまでお声かけください。共に学ばせていただけたらと思います。どうぞ、よろしくお願いいたします。(幼児教育センター長 矢田 貴美代)

## ★幼児教育に関するアンケートのご協力ありがとうございました

令和3年度の幼児教育センターのキーワードは『繋がりを広げる、深める』でした。コロナ禍ではありましたが、市内の公私や種別を越えて訪問させて頂きました。センター開設3年目を迎え、訪問依頼を頂くことも増えつつあり、繋がり深まりを感じうれしく思います。今後も、園運営、環境構成、子どもの発達等について、教育・保育に関することを何でも気軽にお声かけください。

令和3年度の実績とともに、年度末に実施した「幼児教育に関するアンケート」の結果(一部抜粋)をお知らせいたします。今後の運営に反映させ、幼児教育のさらなる充実を図ってまいります。

### ①幼児教育研修会について

- ◇幼児教育研修会等全 15 回実施(実績:のべ参加人数 1399 名)
- ◇幼小接続研修会 2 回実施(実績:99 名参加)
- ◇その他、キャリアアップ研修や自主勉強会などを実施

幼児教育研修会の様子



第五回研修「幼児期から小学校への学びの連続性について」では、小学校1年の担任の先生も参加しました。市内のブロックごとに分かれ、1年生の様子等の情報交換や、持ち寄った保育の写真を用いての実践交流を行いました。子どもを中心に、校種や公私の別を超えて実践交流し、有意義な時間となりました。

〈研修会について頂いたご意見(抜粋)〉

- ・幼児教育研修会では様々な内容で学びの機会をいただき、感謝しています。今後ともよろしく願いいたします。
- ・リモート研修では参加者枠が広がり学びの機会が増えた。
- ・キャリアアップ研修の参加人数を増やしてほしい。予約が取れなくて残念だった。

### ③幼児教育アドバイザー訪問について

◇アドバイザー訪問(実績:のべ 325 回)

◇相談件数(実績:156 件 うち職員 79 件、保護者 77 件)

◇アドバイザー報告会(実績:13 回)

〈アドバイザー訪問について頂いたご意見(抜粋)〉

- ・保育所内の職員だけではなく、違う角度から保育を見て意見をもらえることは、資質向上に繋がると思うので、今後ともよろしく願いします。
- ・相談できる場があることは、施設長をはじめ全職員の安心に繋がっています。

今後も皆様からのご意見をもとに、さらに「幼児教育の充実」を図ってまいります。

## ★おススメ保育専門書

### 「保育の心もち 2.0」

～新たな窓をひらく～

ひかりのくに

秋田喜代美 著

＊コロナ前、with コロナの2021年初夏まで日本教育新聞に掲載された記事が所収されています。一つのコラムが見開き2ページで読めるので、忙しい時にもおすすめ。「ほっ」とした気持ちになれます。



### 「こども・保育・人間」 学研教育みらい 汐見稔幸 著

＊子どもにかかわるすべての人に。  
『「教育」とは人が生まれ落ちてから始まる。一人ひとりがつくっていくそのドラマを応援することである。』  
「指針」「要領」の大切なポイントもわかりやすく載っています。



### ★あとがきコラム

入園式翌日、ある幼稚園を訪問しました。3歳児にとっては初めてお家の人と離れた日。ある男の子は長い間泣き続けていました。抱っこをしても、気分転換にテラスを散歩しても涙は止まりません。ふと思いつき、傍らのテラスにあるブランターのパンジーの株元をかき分けてみました。すると、3センチほどのヤスデ?の赤ちゃんが2匹見つかりました。思わず「あ」と声を出すと、その子はずっと泣き止み私と一緒に土の上に目を凝らしました。「むしや」「そうやね。によるよしてるね」「うん」短い言葉をかわしながら、2匹が再び隠れて見えなくなるまで二人でじっと見ていました。涙が止まったその瞬間、その子の心は動いたな、と感じました。これから、園の遊びや生活の中で、そんな「ときめき」をたくさん見つけていこうね、と心の中でエールを送りました。

私たち保育者は、そんな子どもたちの「ときめき」、そこからつながる「ひらめき」を支えるために、「この子が好きなものはなんだろう?」「あの子の興味のあることは何か?」と一人ひとりの顔を思い浮かべながら考え、環境を少しずつ工夫し、支えていきたいものですね。

令和4年度も、皆様と一緒に学び考え合っていければと思います。よろしく願いします。  
(幼児教育推進課 岡本)